

原子力の自主的・継続的な安全性向上に向けた更なる取り組み（概要）

当社は、原子力の安全性を自主的・継続的に向上させていくため、1. ガバナンスの強化、2. リスクマネジメントの強化、3. リスクコミュニケーションの強化、を柱とする取り組みを推進していきます。

取り組みにあたっては、トップ自ら安全性向上にコミットするとともに、発電所の第一線からリスクに関する「気づき」を吸い上げる仕組み、原子力部門以外の社内各部門によるチェック体制、社外からの知見の導入を図ってまいります。

1. 「ガバナンスの強化」の主な取り組み

原子力部門におけるリスクマネジメントの強化や、地元をはじめ社会の皆さまとのコミュニケーションの推進を通じて、経営が適切に原子力安全のリスクの分析・評価、必要な安全対策の実施を判断する枠組みを構築します。

- 当社の原子力安全の取り組み姿勢・理念を反映した「中部電力グループ原子力安全基本方針（仮称）」を制定します。
- 社長をトップとする常設の経営会議として「原子力安全向上会議」を設置し、リスクの評価、対応策の審議を行う仕組みを構築し、原子力部門へのガバナンスを強化します。また、「アドバイザーリーボード」を設置することで、社外の有識者の知見を安全性向上に向けた取り組みに活用していきます。
- 他部門管掌役員が原子力安全向上会議の構成員となるほか、内部監査部門が原子力安全に関するリスクマネジメントの状況をモニタリングすることにより、原子力安全にかかる社内監査機能を強化します。
- 全社リスクマネジメントに係るリスクコミュニケーションを強化して、会社全体のリスク認識の底上げを図ります。

2. 「リスクマネジメントの強化」の主な取り組み

原子力部門において更なる原子力安全の向上を図るため、以下を実施することで、原子力安全に関するリスクマネジメントの強化に取り組んでいきます。

- リスク低減の取り組み状況を俯瞰的に確認・評価する機能を追加します。
- 発電所の運営に確率論的リスク評価（PRA）を活用します。
- 設備設計に PRA を活用します。
- リスクを発見する意識を持ち、問いかけ、対応する姿勢を定着(安全文化醸成活動の充実)させます。

3. 「リスクコミュニケーションの強化」の主な取り組み

原子力安全に関し、地元をはじめ社会の皆さまとのコミュニケーションをより深めるため、以下のとおり、社内外のリスクコミュニケーション等に取り組んでいきます。

- 原子力安全向上会議における議論を通じて、経営層と原子力部門間のリスクコミュニケーションを深め、あわせてグループ会社全体の理解を促進します。
- リスクの観点を踏まえたコミュニケーションを充実するとともに、地元をはじめ社会の皆さまとの接点の場を拡充し、原子力安全に関するリスク・課題の認識を共有していきます。
- 当社協力内容の提案を行うなどコミュニケーションを図ることにより、地域防災計画の策定に積極的に貢献します。

別紙 1 原子力の自主的・継続的な安全性向上に向けた更なる取り組み（ロードマップ、ガバナンス体制）

別紙 2 用語集

以 上